

---

◎一般質問

○議長（渡辺文彦君） 日程第1、昨日に引き続き一般質問を行います。

質問の通告がありますので、発言を許します。

---

◇ 深 澤 守 君

○議長（渡辺文彦君） 通告順位6番、深澤守君。

（5番 深澤 守君 登壇）

○5番（深澤 守君） みなさまおはようございます。本日はとても風も無く穏やかな晴天となっております。本来、五月晴れとは、梅雨の晴れ間のこのような天気のことを言うそうです。いま、日本中・・・松崎もそうなんです暗雲が立ちこめており、この暗雲を取り払い今日のような晴天になるようなまちづくりをするために、今日町長と今後どのような形で町政をやっていくか、対話してきたいと思いますので町長ご協力よろしくお願いいたします。

では、通告に従いまして健康と福祉、経済の活性化政策について、壇上より一般質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君）

今の深澤守議員の質問では、聞いている方は何を質問しているか分かりにくかったと思います。そういう風な質問が最近多いんですが、やはりこれは聴衆の方々がわかりやすいように最初質問する必要がある・・・述べる必要があるんじゃないかなあという風に私は思います。

深澤守議員の質問について、私の方で申しあげます。

まず一つ目「健康と福祉について」そのうちの1つ「高齢化が進む松崎西伊豆地区において、今後二次救急の必要性が増していると思うが、松崎西伊豆地区の二次救急について、賀茂救急医療協議会などでどのような議論がなされているのかをお答え下さい。」

回答いたします。

議員のおっしゃるとおり、二次救急の必要性は十分承知しております。賀茂圏域における二次救急、小児救急については、下田メディカルセンター、伊豆今井浜病院、伊豆

東部病院、西伊豆健育会病院の4つの病院で運営体制が整備されており、その運営については、賀茂救急医療協議会で審議されます。しかし、現在は新型コロナウイルス感染症の対応に全力を注いでおり、二次救急の体制整備に関しての協議はされておられません。

また、県全体の救急医療体制については、静岡県保健医療計画により定められており、現在、第8次の2018年から2023年の6年間の計画で、昨年度は中間見直しの予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の関係で、今年度以降に延期されました。

今後、この計画については、賀茂地域医療協議会にて検討されることになっておりますので、西伊豆地区に二次救急医療機関があることが重要であるとの認識のもと、西伊豆地区の救急医療体制の維持及び強化について、西伊豆町と連携して取り組んでまいりたいと考えております。

同じく「健康と福祉について」の二つ目の質問でございます。「岩科診療所の開院よりも、今は二次救急の充実と、確実に増加する介護費及び医療費の抑制する政策を優先すべきだと私は考えます。」この件についてどう思うか・・・ということでございます。

お答えします。

病気が重症化するまで発見できず、救急車で二次救急の医療機関に運ばれ、入院や大きな手術をすることとなると膨大な医療費がかかります。また、退院後もリハビリや介護などが必要となるケースがよく見られます。

しかし、日頃より地域に密着した診療所でかかりつけ医による定期的な診察により、予防に努めることや早期に病気が発見され、重症化する前に治療がはじめられることの方が、より医療費や介護費の抑制につながるものと考えます。高齢になればなるほど、体調が悪いと感じたときに自宅近くの相談できる診療所として地域に密着した、かかりつけ医の存在が、地域で安心して生活できる基盤となることと思います。

また、今後は医療と介護を同時に必要とする状況が増加していくことと想定され、これに対応する地域医療を推進していくためには、訪問診療などによる在宅医療と介護の連携は重要であり、これを担うのは、やはり地域に密着した、かかりつけ医の存在が重要であると考えております。

同じく「健康と福祉について」の三つ目でございます。「ワクチン接種の反省を踏まえて緊急時の医師の確保はどのようにしていくのかお答え下さい。」という質問ござ

います。

お答えします。

新型コロナウイルスワクチン接種を実施するにあたり、医師を確保することが非常に大変であり、今回は賀茂医師会のご協力により医師を派遣していただき、ワクチン接種を進めることができましたが、やはり地元には医師がいることが必要だと痛感しているところがございます。緊急時において、地元には医師がおり、普段から地域住民の生活の状況をよく知り、住民一人ひとりの健康状態などを十分把握している、かかりつけ医がいることで、早急な対応ができるものと考えております。

また、地震等による大規模災害時においては、交通手段等が遮断された場合でも、救護所の拠点としても役割を担ってもらうことができることから、今後も引き続き岩科診療所の整備を進め、医師の確保に努めていきたいと考えております。

大きな二つ目「経済対策について」でございます。そのうちの一つ「松崎町で起こすイノベーションとは、どのような政策でしょうか。お答えください。」ということです。

お答えします。

イノベーションとは、新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらす幅広い変革を意味します。

その意味では、わが松崎町におけるイノベーションとは、豊かな自然、深みのある歴史、文化を踏襲し、ITやIoTといった新たな技術を活用し、住民満足度の高い町をつくることであります。そのために、町民はもちろん、町外からの視点も広く取り込んで安全、安心な住みよい町づくりを進めてまいります。

「経済対策」の二つ目でございます。「地産地消をどのような政策で実現しますか。お答えください。」地産地消をどのような政策で実現しますかということです。

当町の経済対策を推進するためには、地域内で生産し、消費するような経済循環体制を図ることが最も重要と考えております。そのためには、地元で採れた新鮮な農林水産物やそれに付加価値をつけた加工品などを、多くの皆さまに提供する直売所が必要ではないかと思っています。このことにより、農林水産物の販路が拡大し、農林水産業者の収入増になるとともに、消費拡大により地域経済が活性化していくことが期待されます。今後、この直売所設置につきましては、関係者のご意見を伺いながら進めてまいりたいと考えております。

その他、地産地消を推進するため学校給食や観光施設において、地元の農林水産物を使用してもらう仕組みづくりや、町内の飲食店に地域の食材を生かした新メニューの開発、新たな生産者確保に向けた研修会の開催など町として積極的に働きかけてまいりたいと考えております。

「経済対策」の三つ目であります。「ふるさと納税を増やすための政策」はどうかと言うことであります。

回答いたします。

当町のふるさと納税につきましては、議員の皆さまからも再三にわたり、ご意見をいただいているところでございます。町といたしましても、ふるさと納税は貴重な財源であることは十二分に承知しており、先日も事業者への説明会を開催させていただき、返礼品を増やすお願いをしたところであります。

また、ホームページの更新や、魅力ある返礼品、松崎町ならではの返礼品などを町からも企画、提案し、1人でも多くの方が松崎町の返礼品を選んでいただけるよう鋭意努力を重ねてまいります。

「経済対策」の四つ目であります。「今町長がすべきことは、外回りをして岩科診療所を令和5年に開院しますという説明を町民の皆さまにするのではなく、担当役場職員と良く対話してコロナ対策経済対策を押し進めていくことのほうが重要だと私は思います。この件について、町長の考えをおききします。」ということであります。

お答えします。

鈴木議員のご質問にも回答したとおり、私は、コロナ禍における感染防止と町民の命を守り、くらしや経済を支えることを第一に、令和3年度予算の重点施策に「新型コロナウイルス対策」を掲げました。このことは、未だ新型コロナウイルス感染症の収束は見えない中、本年度も継続してコロナ対策を効果的に行っていくことが、町の最重要課題であるという考えに立っているからであります。外に出て、コロナ禍で町内がどのような状況なのか、町民や事業者の切実な声を伺う中で、観光事業者だけでなく、観光に関連する事業者や医療福祉関係者、いや、大学生や高校生の子供を持つご家庭、一人親世帯などに幅広い支援が必要であることが分かったからこそ、これまでのコロナ対策に活かすことができたのではないかと考えております。

当然のことながら政策を企画実行していくためには、職員の協力は欠かせませんの

で、今後も引き続き意思疎通を十分に図りながら進めてまいります。

以上で質問にお答えしました。

- 5番（深澤 守君） 一問一答でお願いします。
- 議長（渡辺文彦君） 許可します。
- 5番（深澤 守君） まず最初に1問目、福祉と医療について質問いたします。町長最初の2次救急について、今コロナ禍であるので、県に賀茂地域の二次救急については話し合いはしていないという認識でよろしいのでしょうか。
- 町長（長嶋精一君） そのとおりでございます。
- 5番（深澤 守君） 昨年ですね、西伊豆病院さんの方から病院経営が大変だということで、西伊豆町と松崎町の方に助成してくれということがありまして、議会の方としても補填の方を認めさせていただいたんですが、そのときにやはり西伊豆地区松崎地区の二次救急は脆弱であるという認識をもたれたと思うんですが、そのときに町長常々松崎町を、安心、安全の町にするということを述べておられるときに、これからの二次救急をどういう風にするかって言うことを考えられたのでしょうか。もし考えたのならば、どのようにしていくかお答え願えますか。
- 町長（長嶋精一君） 今このコロナ禍でもって、二次救急はどうかということは・・・私は常にコロナ禍であってもあろうが無かろうが、かかりつけ医も大事だし二次救急も大事だと思ってます。どっちはいらない、どっちは必要だということには組しない考えです。両方とも大事だからです。それについては二次救急も継続するように・・・先ほど申しましたとおり、西伊豆町と一緒に運動をして参りたいとこのように思います。追加があったら担当課長よりお願いいたします。
- （○5番（深澤 守君） 結構です）
- 5番（深澤 守君） 今、町長の回答ですと二次救急もやりますけど、岩科診療所もやってくというご回答だと思いますけど、町長もしですね両方やるとして、これ財政的な負担でこれ大きくなると思うんですけれども、これ松崎町財政的に耐えられますかね。どっちか優先的に考えないとやっていけないような気もするんですけれども。その辺についてのご回答よろしくお願いいたします。
- 健康福祉課長（糸川成人君） 二次救急につきましては、賀茂医療圏の中で検討していくものでありまして、賀茂医療圏の中で負担をしながら負担割合等を精査しながらです

ねやっていくというものでございます。県の方にも確認をしたところですね、今のところ二次救急の停滞とか、そういうところの話というのは出ていないということで、人口減少によりました病床数の減少、これについて将来的に検討していかなければいけないという県の意見でございますけども、その辺もまだこれから、これから進めていくということでございます。また、かかりつけ医の存在につきましてはですね、やはり地元に着した愛される診療所を目指して現在進めていこうということが目標です。やはり信頼できるかかりつけ医が近くにいることで、患者さんも、数も増えるということで、患者さんの数が増えればですね。安定した経営につながっていくということで、今考えております。

(○町長(長嶋精一君) 議長)

(○5番(深澤 守君) 結構です。)

○5番(深澤 守君) 町長に伺います。これ、財政的なことを今問うておりますので、経費の県について、岩科診療所のことについて伺いたいですけど。町長は、やるときに債務負担行為7,200万以上は出さないということをいっておりますが、この考えを堅持するというのでよろしいのでしょうか。町長。

○町長(長嶋精一君) 環境はだいぶ変わってますけど、基本的には7,300万だっけな・・7,300万という数字は・・それが赤字の補填ということなんだけれどもね、それは地域医療振興協会と交渉してできるだけそういう風な形で進めて参りたいと思っています。そして、深澤議員が気にしていることはこの設備投資をすることで、どれだけ町が負担が来るかということでございますけれども、公債費・・借金の返済についていいますとね・・

(○5番(深澤 守君) 今そこは聞いてないです)

今、今3億3,000万位・・

(○5番(深澤 守君) 今そこは聞いてないですよ。)

○議長(渡辺文彦君) ちょっとお待ちください。深澤議員は財政のことについて聞いてますから、町長の発言を認めます。

(○5番(深澤 守君) 聞いてないですよそこは。)

(○議長(渡辺文彦君) 聞いてます。)

○町長(長嶋精一君) 3億3,000万ぐらいの年間の返済になっております。これは、た

とえ1億6,000万、7,000万の設備投資をしたとしても、3億3,000万から3億5,000万位のレンジの間でもって推移する予定です。これは10年くらいの返済計画をちゃんと作っております。そして、今までのピークというのは、平成16年・

(○5番(深澤 守君) 短めにしてください)

ちょっと聞いてください。平成16年に・

(○5番(深澤 守君) 長い)

7億1,000万位の返済をしています。したがって、私は過去の推移からいっても全く間違いないあと考えているわけでございます。

○5番(深澤 守君) すいません、もう少し端的に回答お願いします。

○議長(渡辺文彦君) 町長、端的に要領よくおねがします。

(○町長(長嶋精一君) はい。)

○5番(深澤 守君) で、それでは詳細なことです、生活環境課長にお伺いしたいんですが・あ、ごめんなさい、健康福祉課長にお伺いしたいんですが、前に情報公開を受けたときにですね、診療所やるにあたって地域医療振興協会が、このような形でやってもらいたいって要望が出されてます。その中ですね、岩科診療所へのアクセス、交通費などのいろいろな要望が出されていると思いますが、それを実現するためにですね大体どれくらいの経費が見込まれているのか、試算されているのか、もし試算があるのでしたら金額等を・最大の金額等を教えていただきたいんですが・

○健康福祉課長(糸川 成人君) いろいろな要望というのはですね、例えばコンビニと一緒に建てるのか介護施設と一緒に建てるのかそういう内容で良いですか？

(○5番(深澤 守君) はいあと、交通アクセス)

(○健康福祉課長(糸川 成人君) 交通アクセス・はい)

そちらの方につきましては、同じ敷地にですね、そういう施設を作って便利なというか診療所にしたいと協会の意見でございましたけれども、町としては「そちらの方はできない」というような回答でありますので試算等はしておりません。ただし、交通アクセスにつきましては、ただいま買物支援等のタクシー運営をしておりますので、そちらの方を活用して・フォローするというような内容で回答していると思います。

○5番(深澤 守君) そうするとですね、交通アクセスについては、買物支援等タクシーについては、月・水・金ですか、3日やってると思うんですが、これからこれが岩科

診療所が開院すると、開院中はほぼ毎日やってくという意向でよろしいですか。

○健康福祉課長（糸川成人君） そちらにつきましては、町の交通・・・地域交通機関・・・交通会議・・・地域交通会議ですか。バスやバス等の公共交通機関ですね。そちらの等も含めた議会が・・・会議がありますので、そういうところと一体的にですね検討して行く必要があるのかなあと考えております。

○5番（深澤 守君） すいませんちょっと前後しますが、先ほどの債務負担行為なんですけど町長ちょっと曖昧な発言だったんで、確認したいと思うんですが、7,300万以上もし地域医療振興協会との交渉の中で出てきた場合は、それを認めるという見解でよろしいんですか。それとも・・・はい。

○町長（長嶋精一君） そういう話が出てきましたらいろいろ交渉しまして、また、それを議会にも図りまして・・・そういうことで繰り返しなど議会との・・・そういった・・・図っていきながら、結果を出してきたいとこのように思っています。

○5番（深澤 守君） 先ほどですね町長は、岩科診療所を作られなければ早期発見できない・・・とすると重病化して、入院したり手術したりするから早期発見のために岩科診療所を作らなければならないっていうような発言がありましたけど、その前にですね食事療法ですとか地域の中にお年寄りを入れて、社会の中に・・・社会の中でこう・・・何というか、居場所づくりとかそういうものを作って予防してく。病気にならないって事の方が私は重要ではないかと思うのですが、そのような考え方ってのは町長にはございますか。

○町長（長嶋精一君） それは、深澤議員のおっしゃるとおりであります。あの一やはり同時並行していますかね、やはり血圧の高い人には塩分をセーブするとか、そういう事前のですね、そういう風な勉強会とか講演会とかね健康福祉課で最近時お医者さん呼んで講演会やりましたけど、そういったことは頻繁にやっていく必要があるなという風のもあります。

○5番（深澤 守君） それであるならですね、私の考え方としては今診療所・・・今お医者さんが2名しかいない、将来的に足らなくなるから岩科診療所を作りたいっていう事では無くてですね、そのお金を・・・逆に言うとその・・・食事をして健康にさせていただくとかコミュニティーづくりのための人材を育成するための経費にするとか、将来増えるであろう医療費及び介護費の抑制をするための政策に今投資してった方が将来の財政

負担を軽減するために必要な政策では無いかと思っておりますが、私の考えは間違いでしょうか町長。お答えください。

○町長（長嶋精一君） 間違っているとは思いません。ですから、あの・・・それはやっぱりいいましたとおり、2次救急が必要でかかりつけ医は必要では無いということと同じですけれどもね、やはり事前に健康に対する事をですね、町の方でいろいろと講演会等で啓蒙していくということと、これも大事で、それと診療所を作っていくということも、長期展望から安心、安全を守るためにも、必要であるという・・・これ両方が、私は必要だと思います。そして、さっき私間違えたこといいました。公債費が平成17年、1億じゃなくて・・・7億1,000万ていいましたけど、平成16年がピークで6億1,000万でございます。これは訂正いたします。

○5番（深澤 守君） 今ですね一般会計の方から、後期高齢者の拠出金が3,600万、国民保険が6,800万、介護保険の方が1億4,800万合計で2億5,200万くらい出ておりますね、で松崎の総予算が360億円で全体の7%を・・・

（「??」）

すいません・・・数字間違えてたらごめんなさい・・・

大体これくらいの予算を出している訳ですね。そうするとこれ、若者がいなくなるとどんどん税収が減ってくるその中で、この福祉に関する予算の比重がだんだん大きくなっていくそうすると財政的にすごく厳しくなり、町民サービスの低下っての免れないと思うんですね。その点について町長どのようにお考えでしょうか。

○町長（長嶋精一君） いま、深澤議員がおっしゃったことは本当にそのとおりでございますが、あの、経常収支比率というのがあるんですね。家庭でいうと・・・要するに家庭で言うと固定費がどれだけあるかということなんですけどね。固定費が多いうて事は余裕が無くなるってことです。今町でいいますと、さっき言った公債費・・・借金の返済、それと人件費、それと扶助費・・・福祉にかかる事ですね。これらが多すぎると、パンクしちゃうわけです。うちの町は、決してパンクする状況ではございません。将来も、全く安全だということをここに言いたいと思います。あの、土屋議員は監査委員やっておりますけれども、あの今現状は全く問題ないとお墨付きをいただいております。

○5番（深澤 守君） 私はですね、現在の話をしているのでは無くて・・・

（○町長（長嶋精一君） うん、将来も・・・）

将来も、今の松崎の状態を見てると不安がある。そのリスクを回避するには何をし無ければならないかっていう議論をしているので、全く不安が・・・っていう回答は疑問が残るところであります。で、次にお伺いしたいんですが、その緊急時の医療の確保について町長は明確な回答を伺っていないのですが、もしこれこの後にですね、ワクチン接種のような状態が起きた場合に、どのような対策をとられるおつもりですか。医者確保の面とかその辺で・・・

○町長（長嶋精一君） ん？

だから将来にですね、もしこのような・・・今のようなコロナの状態が起きた場合に、町長は今回のコロナの状況を踏まえて、どのような対策を取るおつもりですか。

○町長（長嶋精一君） 今の現状をね、何回も何回も話をしておりますが、このコロナのワクチン接種において医師不足というのが顕著になっているわけです。これはあの・・・昨日岩井茂樹候補者がですね、松崎で遊説しました、が静岡県は医師が非常に少ない県であるということをおっしゃってました。それは、私も静岡新聞で同じ事をいいました。そして、賀茂圏域は・・・賀茂圏域は本当に少ないんですね。私どもも少ないわけです。したがってこれを今深澤議員が将来のことを心配なさっておっしゃってますけれども、だからこそ私は、そのかかりつけ医が欲しいなあと・・・今おられるお医者さんが、それこそ40代、50代ならいいんですけども・・・あの私は今の年齢を考えてもですね、将来的に不安であるので、町民の命と安心安全守るためにも、かかりつけ医を開業させていただいて、そこでおかしな緊急の患者が出たら即二次救急、それから三次救急というそういう、そういう経路を・・・スムーズに行くような体制を作りたいと考えております。

○5番（深澤 守君） 町長あの・・・岩井先生の話、自分の都合の良いところだけカットして話してもらうのはやめてもらえますか。岩井先生は、何を言っているかっていうと川勝知事の時の医療体制の不備を指摘しているんです。他の小さな県でもですね、医学部卒業している人は450人位いるわけですよ。わが静岡県360万人、全国でもトップ10に入る大きな県で浜松医大卒業する人が150人しかいない。それは川勝県政の失策だって言っているわけです。それと岩井先生は、医師不足であるならば県と国それから市町村が連携してコロナ対策に当たらなければワクチン接種は、できないっていつているんです。今の町長の意見と違うじゃ無いですか。ですから、その話で行きますけど、川勝知事がお医者さんがいないからワクチン接種が遅れてる。町長もおんなじ発言して

るんです。しかし、ワクチンを打たなければならない、安心安全なまちづくりをしなければならぬ。そうしたら、現状医師が足りないのはわかっているんであれば、何か手を打たなきゃだめだ、それは基本町長の役目じゃ無いですか、「医師がいないからできない」首長がそんな無責任な話してどうするんですか。人のせいにしてどうするんですか。僕はこう思います。

その中で、町長は賀茂医師会に相談したという風なことを言っておりますが、なぜ県に相談しなかったんですか。今地域医療振興協会と親密度は増してきています。なぜ地域医療振興協会にお医者さんを派遣してくれって頼まなかったんですか。他の町では、5月の中旬に歯科医師会の方がワクチン打ってます。なぜ歯医者さんに頼まなかったんです。安心安全なまちづくりをしたいのであれば、その所をしっかりと見据えてしっかりとやっていくべきだったと思うのですが、町長その所の所いかがですか。

○町長（長嶋精一君） 今話を聞いてると、本当正義の味方の方が、悪い町長を論じてるっていう事で・・・

（「・・・」）

川勝さん・・・知事と岩井候補さんは言っておられることは・・・言っとられるっていうか。要するに静岡県に医師が少ないという事、それでワクチンの接種の接種率が遅れてるということについては一致しています。私も一致です。そして何で県に行かないのか。と県とも、しっかり交渉をしております。したがって県からも・・・まだわかりませんが、どもね。応援態勢を組んでくださることがあるだろうし、県の県会議員と国会議員とも、国会議員の先生ともしっかりお願いをしております。以上です。

○健康福祉課長（糸川成人君） ちょっと県の話させていただきますと、当初、一番最初にスケジュール等を組む時には、県は、ワクチン接種は市町の役割だと・・・住民に対するワクチン接種は市町の役割だと言うことで「医師の確保も市町でしなさい」というような指導でいたので町としては、賀茂医師会・・・地元の医師会に協力を要請してという相談をさせていただいたということがございます。また、歯科医師会のワクチン接種の話もありますけども、今現状としましては、打ち手・・・看護師でもできますので、看護師の確保は、在宅看護師と言うことでですね確保はある程度できております。ただその前の予診でワクチンを打って良いかどうかの判断をするのは、あくまでも医師であります。そちらの方の医師の確保を今回やっているという事でございます。

○5番（深澤 守君） じゃ、今回ワクチンが打てなかったのは県の責任で、町はそこま  
で責任はないという・・・

（○議長（渡辺文彦君） あの・・・深澤君に申し上げます。今ワクチン接種の件が議論で  
は無いと思います。一次救急か二次救急かの議論だと思いますので、そちらに話を絞っ  
てください。）

はい、質問を変えさせていただきます。私はですね今、町長が両方やるという・・・二  
次救急と岩科診療所開設すると・・・両方やれるということで認識してると思うんですが、  
私はそれよりもやはり、岩科診療所じゃなくて二次救急の充実と・・・あの・・・居場所づ  
くりだとか食事の改善だとか進めて参りたいと思っておりますので、その辺をご了承頂  
きたいと思っております。あの・・・町長は両方やるということでよろしいんですね。

○町長（長嶋精一君） 二次救急病院、24時間診療体制というのはね、大切なんですよ。  
あの・・・赤ちゃんと子供さんが、夜熱を出すんです。そういう時に、やはり二次救急病  
院が無いと困るんです。したがってそういうことで両方大事であるということです。

○5番（深澤 守君） それで2番についてお伺いいたします。町長もその・・・静岡で  
有名な銀行で常務までやられた方ですので、企業経営等について大変お詳しいと思いま  
すのでお伺いしたいと思うのですが、前にですね町長はイノベーションのことについて  
経済学者のシュンペーターについてちょっと他の人と語られてると思うんですが、シュ  
ンペーターが言うですねイノベーションについては、いろいろあるんですが、その中で  
新しい発想を加えることによって新しい商品を作ると言う事が入ってると思うんです  
よね。それについて町長は、その・・・どのような考えで取り組むおつもりでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 非常に深澤議員らしい質問でございまして、リノベーションとい  
う質問が出るとは思いませんでした。非常に嬉しく思います。今足りないのが・・・松崎  
町で足りないのが、リノベーションだと思います。おっしゃるとおりに・・・技術革新と  
いう風に一般的ではいわれててね、製造業とか医療とかそういう物作りの所だけリノベ  
ーションっていう風な概念が受け取られてる事が多いと思いますけど、それは違うと思  
うんですね。最初そのシュンペーターという方が作ったリノベーションは、「新結合」  
新しい結合だといって前々からの事の良いところを利用して新しいものを加えるとい  
うこととでございます。したがってあの・・・非常にあの・・・私としてはうれしい質問でし  
た。以上です。

○5番（深澤 守君） 方針について全然語られてませんが・・

（○町長（長嶋精一君） ん・・方針・・ん）

（○議長（渡辺文彦君） 町長もう一度質問の趣旨に沿った回答をお願いします。）

（○町長（長嶋精一君） もう一度質問をお願いします・・簡単に・・）

（「立って、立って」）

（○5番（深澤 守君） 新結合することは、どのような方針でやるおつもりですか。）

○町長（長嶋精一君） ここに書いてあるとおりにね、IT、IOTといったものを活用しながら新しいものを作っていくということでございますけれども、今静大とか松崎高校の生徒さんに・・

（○5番（深澤 守君） あ・・わかりました。）

ん・そう・・そうゆうこと・・

（○5番（深澤 守君） あ・・はい十分です。）

それと・・

（○5番（深澤 守君） あ・・はい十分です。）

ん・いい・・

○5番（深澤 守君） 下の地産地消の部分も絡めて質問したいんですけど、右のものと左のものをくっつけるには、右のものと左のものがなければいけない。それが地産地消の第一次産業だと思うんですけど、その、今第一次産業の担い手がどんどん少なくなって、高齢・・お年寄りがやめてしまうと、ほぼ残らないっていう状態になると思います。新規の農業者を増やす施策って簡単にお答えください。

○産業建設課長（新田徳彦君） 農業者を増やすっていうようなご質問でございますけれども、今、現制度におかれましてはですね、農業後継者の体制を・・奨励金ですね。奨励金ですとか、青年就農給付金こういった制度がございます。そのほかにも、今年度農業の・・農業にたけている方を講師にしてですね、研修会みたいなもの・・開催なんかも今考えているところでございます。新しく就農できる方の相談窓口的なものにもなれば良いかなあなんてことも考えておりますけれども、そのような形で新規の就農者を増やしていければということでございます。

○5番（深澤 守君） 今現状そこまで成果が上がっていないって事ですので、いろいろな方策を考えていただいてですね、伸ばしていただくということを考えていただければ

と思います。

もう一点なんですけど先ほど、鈴木議員や小林議員の方から質問のありました鳥獣害対策も一緒だと思うんですね・・・作るに当たって。昨日の話ですと問題点は駆除がうまくできてないから進んでないって話だったと思うんですが、その考え方でよろしいでしょうか。

○産業建設課長（新田徳彦君） 鳥獣害対策につきましてはですね、今までは農作物を守るという所から、最近では民地の方に出没するような形になっておりまして、なかなか個人では対応が難しいのかなあとということでございますので、今町で考えているのは地域で・・・地域一丸となつてですね対策に取り組んでもらう。そういう方針にシフトしていこうかなあとということになります。

○5番（深澤 守君） 5分延長をお願いします。

○議長（渡辺文彦君） 許可します。

○5番（深澤 守君） 先日ですね、伏倉の方に怒られたんですけど、町会議員がちゃんと陳情でも何でも行ってくれないから、個人に対する設備に補助が出ないって・・・だからおまえらしっかりやれっていう話をされたんです。元々伏倉でやろとしているのは伏倉全体を囲うとかそういう話で、みなさんでやっっていこうという話だったと思うんですね。その辺をしっかりと徹底していただいて、モデル地区にして・・・他の地区も困っていてやりたいところたくさん出てきているんで、どんどん進めていただきたいと思うんですけど・・・その辺の所いかがでしょうか。

○産業建設課長（新田徳彦君） 一般質問の回答でもお答えさせていただきましたけれども、伏倉区同様にですね地域でまとまって対策をしてきたいよという所につきましては、町としては積極的に応援はしたいなと考えておりますので、もし他の地区でもこういった要望があればですね、我々の方もできる限りの支援をしていきたいと思っています。

○5番（深澤 守君） 次に消のことについて・・・地産地消の消についてお伺いいたします。山本五十六先生の名言にはですね、最初に「やってみせ・・・」ということがあります。その中で、やってみせる代表がまつぎき荘だと思うんですけども、今まつぎき荘いろいろメニューを考えています。フランスのミシュランの三ツ星の条件は、旅までして食べたい料理ということの基準で選んでいるそうです。まつぎき荘で今、まつぎき荘まで

いって絶対食べたいっていう料理もしくは方針っていうのは、町長ございますか。

○町長（長嶋精一君） 大変マイクロな質問でございますが、私も理事長やってるすもんですからお答えさせていただきたいと思います。あの・・・これっていうのは・・・一言で言うのは難しいんですけどね・・・お刺身ならお刺身だけと・・・お魚だけということでは無くていろんなその・・・イタリアンとかフランス料理とかアレンジしながらね・・・元々あるその・・・松崎の食材といろいろな形で組み合わせながらやっていくのも、大きなその松崎らしさでは無いかと思います。これは、当初深澤議員が町会議員になったときに、確かそういうことをおっしゃっていたと思います。それと同じです。

○5番（深澤 守君） 料理・・・西洋料理の中になんとか風とかなんとか風っていう・・・やっぱその地域にそくした料理法なんかもありますので、是非取り入れてやっていただきたいともいます。

次の③何ですけど、ふるさと納税の政策についてお伺いしたいんですけど。宿泊のふるさと納税の数字見ると、まつぎ荘が88件ぐらいで全体で650件ぐらいしかないんですけど、これ松崎町観光地って事ですので、宿泊を増やせばふるさと納税の金額が極端に増えると思うんですけど、伸びない原因って端的にお答え願います。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今のご質問ですけれども、まつぎ荘に限らずなんですけど、あの・・・民宿旅館も含めてですけれども、今ネットの予約がメインで入っております、ふるさと納税の方とのリンクがまだできてないもんですから、直接ネットで申し込まれる方が多いというところになってございます。

○5番（深澤 守君） それを踏まえて伸ばす方法ってございますか。

○企画観光課長（深澤準弥君） まず、先ほど料理の話もありましたけれども、まず行きたい・・・松崎町に行きたいって言うことに、特化されると思います。その後、きていただいた方に、やっぱりきて良かったと思われることが、一番まつぎ荘に限らずですけども、お客様に対する満足度の向上って事になっていくかと思います。その部分について色々今、振興公社の方がまつぎ荘の方・・・一応指定管理で受けてやっていただいているんですけども、そちらについても、コロナ禍でいろいろな状況があるんですけども、今後・・・なかなかこう・・・組織の中に入ってって言うのが、今までできなかったんですけども、そこについては今後企画観光課としても町の方としても関与して行くということを今進め始めているところでございます。

○5番（深澤 守君） 今ですね、システムのふるさと納税の宿泊見ると、個人の所に資金が回らないですね。来てもらわないと資金が行かないようなシステムになってますよね。ふるさと納税頼むと、観光協会まではお金が来るけど、宿泊しなければそちらの方にはお金が行かないっていうシステム・・・。今みなさん資金面で大変困っているんであれば、やはりその直接いけるような形にシステムを変えるべきだと思うんですけどもその辺の見解についてお願いします。

○企画観光課長（深澤準弥君） 一番最初に民宿旅館等にふるさと納税のお願いをしたときに、やはりその、手間がかかるので・・・個人の方が、その分どうしても観光協会・・・雲見なんかもそうなんですけれども、そちらを通じて・・・というような要望があって現状そうなっているところであります。

○5番（深澤 守君） ふるさと納税増やすのに、やっぱ産品増やしていかなければならないとおもうんですが、その産品増やすには西伊豆町みたいに加工場作る・・・があるって事が必要だと思うんですけども・・・。町長加工場を早期に作るっていう見解は、前は無いって言ったんですけど、その考えに変わりはございませんか。

手短にお願いします。

○町長（長嶋精一君） 手短に言うと非常に難しい件ではありますが、ふるさと納税っていう制度ができてね・・・できる前から西伊豆町はいろんな工場があって、盛んであったわけです。だから、ふるさと納税をやったから工場を作ったって訳じゃ無いんですね。焼津もそうです。昔から非常に盛んだった・・・それにふるさと納税がピタッと乗ったという・・・そういうことは事実でございます。今ですね松崎町が設備投資をするということは、非常にその・・・難しいと思います。今例えば・・・

（○5番（深澤 守君） すいません・・・時間が・・・）

時間がありますから・・・

（○5番（深澤 守君） 作るか作らないか聞いてます・・・）

今の時点では、私は非常に難しいという風に思います。

○5番（深澤 守君） 民間で力がある所でしたら設備投資はできますけれども、お年寄りが多い所、これから設備投資してもしょうが無いな思うところでは、やはり積極的に町が財政を出して加工場作ることは必要だと思いますのでご検討願います。

で、時間が無いので最後ご質問しますが、4番についてです。町長あっちこっち行っ

て町民のみなさんに意見を聞いているって言う話をしますが、私色々な人のところに行きますけど町長・・・意外と町長に批判的な人のところには回ってらっしゃいませんね。すべての人に声を聞くのであれば、町長が出向くのでは無くて、庁内にいてどっしり構えているいろいろな人の意見を聞くそれの方が必要だと思いますが・・・。

町長今の方針を変える事はございませんか。

○町長（長嶋精一君） 全くございません。というのは、私は町民の・・・その・・・声を聞くと、それを町政に活かしていくことが大事でございます。そして、自分の支援者ばかり行く、それもございません。あの・・・大体平均的に回っております。で、なんでもそうですけれどもそうやって町民の声を聞くという時間を作るのと、どっしり構えて町長室で施策を練ると・・・今後どうしたら良いかと言うことをねしっかりとした時間を作ってやらないと、どうしてもバタバタしちゃう。だからそれをバランスを取ってやっております。回るということは、やめることはありません。名刺をただ配ってるわけじゃございません。

以上です。

○5番（深澤 守君） まとめさせていただきます。今コロナ禍でワクチンの接種を進めて行くことは、経済を回すことにもなります。ましてや経済が発展しなければ移住もなりませんので、是非と松崎町の課題解決に向けて、我々も、一生懸命ご協力いたしますので、町長の方も一生懸命やっていただきたいと思います。

以上一般質問を終わらせていただきます。

○議長（渡辺文彦君） 以上で深澤守君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午前9時57分）

---